

# 01 HTML5 とは何か?

HTML5は単なるマークアップ言語の1バージョンではなく、Web全体を進化させる大きな変化の象徴です。

## マークアップ言語としてのHTML5

HTML5というキーワードが、テクノロジー業界全体を賑わせています。ではこのHTML5とはなんでしょう？ HTML5とは、狭義には**HTML (HyperText Markup Language)**というWebページを作るための言語の最新バージョンを指します。HTMLはタグという仕組みで文章を構造化、意味付けするためのもので、このような仕組みを持つ言語を**マークアップ言語**といいます。テキストに対して「ページタイトル」「見出し」「段落」といった意味を与えたり、画像などを表示する指示をしたりします。また、Webページの最大の特徴の1つ、**ハイパーリンク**もタグで設定します。

HTMLをWebサーバーにアップロードして公開し、HTMLの文章の構造や意味をブラウザが解釈すると、**Webページ**が表示されます。つまりHTMLはWebページの文章そのものであり、内容を決める指示書なのです。



### タグを入れてテキストをマークアップ(意味付け) する

```

<!DOCTYPE html> _____ HTML5 文書であることを示す
<title> ページタイトル </title> _____ ページタイトル
<h1> 見出し </h1> _____ 見出し (headline)
<p> 本文本文本文 _____ 段落 (paragraph)
<a href="link.html"> リンク </a> _____ ハイパーリンク
本文本文本文 </p> _____
  
```

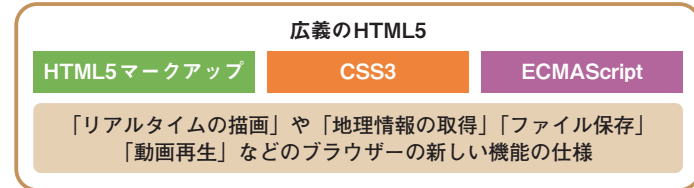
## マークアップ言語のみの改良ではない

ここまでの説明を読んで、文書の形式(仕様)が変わっただけでなぜテクノロジー業界に大きな影響があるのかと疑問に感じた方もいるでしょう。実は「HTML5」というキーワードは、マークアップだけでなく**もっと広い意味の変化**も指しています。

狭義のHTML5は、文書の構造を中心としたマークアップ部分などに関する仕様を指しますが、広義にはその仕様に伴う周辺技術の進化も指しています。つまり、表現力を強化する**CSS3**や、プログラミング言語の**ECMAScript** (JavaScript)の改良も、HTML5の大きな進化の一部です。

HTML5は、文書だけでなくアプリにも使えるような**強力なWebを作ろう**という流れの中で生まれた**Webの最新技術**を代表するキーワードなのです。

### 広義のHTMLと狭義のHTMLの関係



本書では、第2章でマークアップ言語としてのHTML5の仕様について説明し、第3章以降は周辺技術を紹介していきます。

# 02 Webの歴史

現在広く使われるHTMLとCSS、JavaScript（ECMA Script）はそれぞれ異なる出自を持ちます。

## HTMLの発展

「5」という数字が示すように、HTML5は突然現れたわけではありません。HTMLはコンピューター用の文書フォーマットとして誕生し、もともとは研究機関で文献を書くために使われていました。初期はほとんどテキストだけの地味なものでしたが、数度の改訂を経て、ユーザーの入力を受け付ける**フォーム**や、**表組みや文字色などの書式設定**が付け加えられ、HTMLはより多くの機能を持ち表現力豊かな存在へと成長し、多くの人に使われるようになります。

### HTMLの改訂



なお、HTML 4.01の後に、機械が解釈しやすいよう厳密さを増した**XHTML**が作られましたが、現在ではシンプルで書きやすいHTML5が主流で、XHTMLはあまり使われません。

HTMLの進化は機能が増える方向ばかりではありません。第2章で説明するように、CSSとの役割分担を明確にするために廃止されたものも数多くあります。

## CSSとJavaScriptの登場

HTMLはあくまで文書の構造や意味を表すことに特化したものです。そこで、見た目を変更するために**CSS (Cascading Style Sheets)**が、プログラミングのために**JavaScript**が使われています。現在のWebページは、この3つの言語で書かれたファイルを組み合わせて作られています。

### CSSとJavaScript



CSSとJavaScriptはそもそもの目的も異なりますが、普及するまでの経緯も大きく違います。CSSは特定のブラウザに依存しない**標準化された仕様**として、1996年に策定されました。ところが、当時すでにCSSをサポートしないブラウザが普及していたため、一般的に使われるようになるのは、**2000年代の半ば頃**まで待たなければなりませんでした。

一方、JavaScriptは同じ1996年に**Netscape Navigator 2.0**の独自機能として登場しました。ライバルの**Internet Explorer**（以降IE）にも類似機能が搭載されたため、一気に当時の2大ブラウザで利用可能な状態となります。その後、これらの機能の微妙な違いが問題となったため、**ECMAScript**という標準仕様が策定されました。

つまり、CSSは仕様が先、JavaScriptは実装が先に生まれたのです。いずれも現在では標準化されて広く利用されていますが、その誕生から発展までの状況はまったく逆でした。